

# 障害者が自立 できる社会へ

日本で行われるJICAの研修を受けた後、研修員たちは自国に戻り、研修で得た知見や人脈を生かして、それぞれの課題の解決に挑戦している。今回は、障害者自立生活研修に参加したコスタリカの研修員の活躍を紹介する。

## JICA 関西

研修コース 中南米地域障害者自立生活研修(2008~2013年)

受託機関 メインストリーム協会(兵庫県西宮市)

●これまでの参加国：ホンジュラス、グアテマラ、ニカラグア、コスタリカ、ベネズエラ、コロンビア、ペルー、ボリビア、パラグアイ

### 自立して生活する権利

障害のある人が自分の意思で生き方を決め、それをサポートする制度が整っている社会——その実現を目標に、2008年から6年間にわたって行われてきたのが「中南米地域障害者自立生活研修」だ。研修を実施したのは、長年にわたり日本とアジアで障害者の自立支援に携わってきた兵庫県のメインストリーム協会。研修内容にはその経験と知見、ネットワークが生かされている。



2009年の研修に参加したモルフォ前代表のカンプロネロさん(中央)と介助者(左)。

### 研修 in 日本



神戸市内を散策。電車に初めて乗る研修員も多い。

を学ぶことから開始。「障害者の自立の新しい概念」の講義は研修員の意識を大きく変えた。「彼らの多くは社会に出ることなく、家族とともに暮らしています。しかし、どんなに重度の障害があっても自分で生き方を決め、自立して生活する権利があることを伝えると「そんな考え方があるのか!」ととても驚きます」と同協会の藤田俊二さんは話す。

### 法律の制定に向けて尽力

帰国後は、研修員の多くが障害者自立のための活動を始める。「研修で学んだ障害者の自立という考え方を知っているのは自分だけ。それを広めなければという使命感が芽生えるからかもしれません」と藤田さん。

とくにコスタリカでは動きが早く、11年には帰国研修員6人がペレスセレドン市に集まり、自立生活センター「morpho(モルフォ)」を立ち上げた。12年からは介助者の募集や養成、行政への働きかけなどでモルフォに協力するJICAの事業がスタート。事業は帰国研修員たちが中心となり、研修に関わったメインストリーム協会の井上武史さんらの協力を得ながら進められた。とくにリーダーとして力を発揮したのが、ルイス・カンプロネロさんとウエンディ・バランテスさんだ。「二人とも初めはおとなしく消極的だったのですが、リーダーという責任のある立場に立ってからしだいに自覚と実力がついてきました」と井上さんは振り返る。

## 帰国研修員の活躍 in コスタリカ



モルフォセンターでは介助者の研修も行われている。



モルフォセンターの前に集まった利用者とスタッフ。

## Voice

法律で制定された今の介助派遣サービスは低所得者向けなので、これからはすべての障害者が利用できるものにしていきたい。そのためには障害者自身が声を上げることが大切。教育や就業の機会を得て、自分自身の人生を生きることができる社会の実現を目指します。



モルフォ代表  
ウエンディ・バランテスさん(右)

介助派遣サービスを申請に来た障害者に手続きを教えるバランテスさん。

### 中南米から広がる 障害者の自立の機運

バランテスさんは、法律の制定に向けても積極的に活動。「コスタリカでも障害者が自立的な生活を送る選択肢がある社会を実現したい」と思い、法案が国会で通るように働きかけをしました」と思いを語る。そうした努力が実って16年に障害者自立推進法が制定され、資格を持つ介助者の派遣が制度化された。「小さな事務所から始まったモルフォですが、19年に訪れたときには、新しいスタッフや介助者など多様な人たちが集まり、活気にあふれていました」と、井上さんは法律ができたことによる社会の変化を実感している。

コスタリカでの活動に続き、アルゼンチンやコロンビア、ペルーでも障害者の自立に向けた法案の作成が行われ、ホンジュラスでは大統領代理が主導する障害者自立生活支援プロジェクトが進んでいる。JICAでも、20年からふたたび研修をスタートさせる予定だった。「今年是对面の研修は行えないので、11月にオンラインセミナーを開催し、コスタリカでの活動を報告します。参加希望者はすでに1000人を超え、中南米以外の地域からも参加したいという声が出ています」と井上さん。この研修をきっかけとし、障害者の自立に向けた動きが確実に広がっている。

## 中南米地域でも障害者の 自立生活に協力する

### メインストリーム協会



上：ペルーの帰国研修生が、2019年に国会で介助制度の必要性をアピールした。藤田さん(左から2人目)もペルーに赴きともに行動した。

下：ボリビア、ラパス市で行われた障害者のデモに参加する帰国研修員と車いすを押す井上さん。